

## アピール

デジタルへの依存が、子どもの思考力の低下や、読み書き能力を劣化させているとして、北欧の国々では、紙の教科書や手書きを重視する教育に戻している。日本でも記憶力の定着や思考力の育ちは、紙の教科書のほうが勝るといふ調査報告がある。そうした動きに逆行するかのようには、中央教育審議会の作業部会は、デジタル教科書を正式な教科書に格上げするという中間報告をまとめた。子どもの学びの中心にある教科書の行方は、国民の大きな関心事であり、いま開会中の国会でも十分な論議を尽くす必要がある。

生成AI時代に必要とされるのは、思考力や創造力、情報処理の能力などであるといわれている。そのどれもが、広い教養を必要としており、これまで以上に読書活動の充実が求められている。けれども、自治体や学校における読書活動の優先順位は、決して高くない。この現状を直視して、次期学習指導要領の改訂にあたっては、教育課程に「読書教育」や「図書館活用授業」の導入など、児童生徒を読書に向かわせる施策の推進を求める。

活字文化や読書活動の発展にとって、地域の文化インフラの整備はきわめて重要である。それにかかわらず、公共図書館が設置されていない自治体は、全国で約4割にもものぼり、活字離れ・読書離れの要因として指摘されている。公共図書館は、地域住民が生涯にわたって学ぶ場所であるとともに、地域社会と住民生活を支える情報拠点でもある。ビジネスや起業、介護や子育て、町おこしなどをサポートしており、私たちは、政府に対して自治体を支援し、未設置自治体における公共図書館の計画的な設置を推進するよう要請する。

二〇二五年二月二〇日

シンポジウム「生成AI時代の活字の学びと図書館活用教育を考える」

―デジタル教科書から紙の教科書に回帰する欧米先進国、それはなぜか―